

## 専任教員教育研究業績

平成 29年 5月 15日

氏名	ふりがな	所属	職 位	性 別
佐藤 史子	さとう ちかこ	保育学科 通信教育課程	教授・准教授・講師・助教	女
小田原短期大学における担当科目名				
「造形表現 I」「造形表現 II」「表現指導法」「表現総合演習」「保育実習 I」「保育実習指導 I」「保育実習 II」「保育実習指導 II」				
学 歴				
和暦 (西暦) 年 月	事 項			学 位
昭和 52 (1977) 年 3 月	広島大学学校教育学部中学校教員養成課程美術専攻 卒業			学士 (教育学)
平成元年 (1989) 4 月	広島大学大学院学校教育研究科 入学			
平成 2 (1990) 年 3 月	広島大学大学院学校教育研究科 修了			修士 (教育学)
平成 18 (2006) 年 3 月	東京学芸大学大学院連合学校教育研究科			博士 (教育学)
教 育 歴 ・ 職 歴				
名 称	期 間	教 育 内 容 又 は 業 務 内 容		
広島文教女子大学短期大学部幼児教育学科	昭和 54 年 4 月～昭和 62 年 3 月	助手「絵画製作」「図画工作」学生部委員 実習就職担当		
広島文教女子大学文学部初等教育学科	昭和 56 年 4 月～昭和 62 年 3 月	助手「図画工作」「図画工作科教育法」		
広島文教女子大学附属高等学校	昭和 56 年 4 月～昭和 62 年 3 月	非常勤講師「美術」進路指導		
広島文教女子大学短期大学部幼児教育学科	昭和 62 年 4 月～平成 2 年 3 月	講師「絵画製作」「図画工作」「実習就職担当 学生部委員		
広島文教女子大学文学部初等教育学科	昭和 62 年 4 月～平成 2 年 3 月	講師「図画工作」「図画工作科教育法」		
愛媛大学教育学部	平成 2 年 4 月～平成 4 年 3 月	講師「初等図画工作」「初等図画工作科教育法」「美術科教育法」「美術科教育特講」「工芸科教育法」「図法製図」「木材工芸」学生委員会委員		
愛媛大学教育学部・大学院教育学研究科	平成 4 年 4 月～平成 19 年 3 月	准教授「美術科教育特講」「芸術の世界」「美術科教育特論」「美術科教育実践の研究」将来計画委員会委員 就職委員会委員 教務委員会委員 人権問題相談員連絡協議会相談委員		
広島大学大学院社会科学研究科	平成 10 年 4 月～平成 11 年 2 月	客員研究員「ゲシュタルト心理学・グルジア学派心理学」に関する基礎資料の収集・分析		
愛媛県保育専門学校	平成 12 年 4 月～平成 19 年 3 月	非常勤講師「図画工作」「表現 II」「卒業研究」		
新居浜工業高等専門学校	平成 18 年 4 月～平成 18 年 3 月	非常勤講師「美術」		
愛媛大学放送大学	平成 18 年 8 月	講師「教育と発達」		
愛媛大学教育学部・大学院教育学研究科	平成 19 年 4 月～平成 21 年 3 月	教授「美術科教育特論」「美術科教育実践の研究」「修士論文指導」「実践省察研究」将来計画委員会委員 教務委員会委員 実習カリキュラム委員会委員 美術科教育研究室主任 人権問題相談員連絡協議会アドバイザー		
総合学園ヒューマンアカデミー 広島校チャイルドケアカレッジ	平成 24 年 2 月～平成 27 年 10 月	非常勤講師「図画」「工作」「国語」「憲法」「基礎情報学」		
三幸学園 広島医療秘書こども専門学校こども	平成 26 年 4 月～現在に至る	専任講師 「教育方法論」「教職論」「教育課程論」「絵本の世界」「絵本の作成」		

総合学科		
近畿大学豊岡短期大学 通信教育部 子ども学科	平成 26 年 4 月～現在に至る	非常勤講師 「教育方法論」「教職論」「教育課程論」
小田原短期大学	平成 28 年 4 月～現在に至る	保育学科通信教育課程特任教授 「造形表現Ⅰ」「造形表現Ⅱ」「表現総合演習」「表現指導法」「保育実習Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅱ」
所 属 学 会 等		
名 称	活動期間	活動内容 (役職等の活動を含む)
大学美術教育学会	昭和 62 年度～現在に至る	四国地区理事、学会誌委員会委員、論文査読委員、平成 13 年度大学美術教育学会「美術教育フォーラム」企画運営
日本教育大学協会	平成 2 年～現在に至る	美術部門 地区全国理事
日本保育学会	平成 2 年～現在に至る	委員
日本保育者養成学会	平成 28 年～現在に至る	委員
社 会 活 動 等		
名 称	活動期間	活 動 内 容
愛媛県美術教育連盟	平成 2 年 4 月～平成 22 年度	副会長、研究局顧問、指導委員会委員
第 55 回造形表現・図画工作・美術教育研究大会	平成 13 年 3 月～平成 16 年 11 月	準備委員会委員、分科会役員、コメンテーター
えひめこども美術展中央審査委員会	平成 14 年度～20 年度	愛媛県在住の幼児・小学生・中学生・高校生の美術作品の審査
愛媛大学教育学部・今治市教育委員会連携協力事業 研究委員	平成 15 年度～20 年度	公開研究授業の指導・助言
愛媛大学附属幼稚園・小学校・中学校連携教育研究	平成 13 年度～20 年度	研究協力委員
松山市立新玉小学校校内研修会	平成 15 年 1 月	指導助言
鑑賞学習「美術館へ行こう」	平成 15 年 3 月	愛媛県美術館・清水小学校との連携協力事業 (愛媛新聞掲載)
図画工作科研究会 今治市教育研究図工主任会	平成 15 年 6 月	講師
アートな湯築Ⅰ・Ⅱ	平成 15 年 6 月、11 月	松山市立湯築小学校において参加型ワークショップの提供 (愛媛新聞掲載)
中学校美術科夏期研修会	平成 15 年 8 月	講師
美術科主任会	平成 15 年 9 月	講師
中学校美術科夏期研修会	平成 16 年 8 月	講師
教科研修講座 フレッシュサタデー	平成 16 年 10 月	松山市教育委員会との連携協力事業 講師
文部科学省科学研究費補助金採択審査	平成 17 年度～20 年度	審査委員
ダンボクラブ (愛媛県高機能自閉症・アスペルガー症候群親の会) 美術教室	ダンボクラブ (愛媛県高機能自閉症・アスペルガー症候群親の会) 美術教室	ダンボクラブ (愛媛県高機能自閉症・アスペルガー症候群親の会) 美術教室
愛媛県長寿社会復興センターシルバー美術展	平成 17 年 12 月	指導協力 愛媛県社会福祉協議会との連携協力事業
地球人まつり	平成 18 年 1 月	責任指導者

		まつやま国際交流センターとの連携協力事業
青少年のための科学の祭典 松山大会	平成 18 年 11 月	ブース 27 主任講師 主催：青少年のための科学の祭典松山大会実行委員会、文部科学省、日本科学技術振興会・科学技術館
教職員レベルアップセミナー	教職員レベルアップセミナー	教職員レベルアップセミナー
えひめ子ども美術展ワークショップ	平成 19 年 1 月	指導講師 松山市南中学校との連携協力事業
第 86 回愛媛教育研究大会	平成 19 年 2 月	指導助言 愛媛大学附属小学校
学力向上拠点形成事業・校内研修	平成 19 年 2 月	講師 松山市立桑原中学校
青少年のための科学の祭典 松山大会	平成 19 年 11 月	主任講師 主催：青少年のための科学の祭典松山大会実行委員会、文部科学省、日本科学技術振興会・科学技術館
第 32 回 全国育樹祭	平成 19 年度～20 年度	準備委員会委員 (副会長)

担当教科目に関する資格・免許等

名 称	取得年月	取 得 機 関
高等学校教諭一種普通免許状 (美術)	53 年 3 月	広島県教育委員会 (昭五三高二普第一〇九五号)
中学校教諭一種普通免許状 (美術)	53 年 3 月	広島県教育委員会 (昭五三中一普第一〇〇一号)
中学校教諭二種普通免許状 (社会)	53 年 3 月	広島県教育委員会 (昭五三中一普第九一一号)

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単著 共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. 『新版 美術科教育の基礎知識』	共著	平成 3 年 3 月	建帛社	第 2 章 美術教育の領域と内容について「造形遊び」37 節 砂・土・粘土、40 節 発想や連想を楽しむ、41 節 初歩的な構成遊び、42 節 身近な材料をもとにした造形活動を担当執筆した。
2. 『現代 保育用語辞典』	共著	平成 9 年 2 月	フレーバル館	基底線、錯画、展開描法、頭足人、レントゲン描法、チゼックを担当執筆した。
(学術論文) 1. 問題解決過程における思考と造形的イメージ操作 (査読有)	単著	平成 15 年 3 月	『大学美術教育学会誌』第 35 号. 201-208.	ゲシュタルト心理学派とグル ज्या学派の構え理論のうち、問題解決過程における客観化行為の重要性を考究した。また造形的イメージの操作過程と問題解決過程における思考の働きの類似性を言及した。即ち主体の構えの柔軟性や意識化と転換、主題の独創性と問題解決の文脈などについてゲシュタルト心理学理論とグル ज्या学派が提唱した構えを理論軸として考察した。
2. 図画工作科における鑑賞教育プログラムの開発	共著	平成 15 年 7 月	平成 14 年度学部長裁量経費報告書「学校と大学のつながりを創るために」37-44.	本研究では美術館・小学校・大学が連携して、小学生を対象にしてフェルドマンの美術批評を基軸した鑑賞学習プログラムを開発した。鑑賞教育は実物鑑賞による鑑賞学習や、観点別評価規準を踏まえた授業の構造的な研究が重要であると指摘した。

3. 問題解決としての造形過程における思考力の形成 (査読有)	単著	平成16年3月	『大学美術教育学会誌』第36号. 177-184.	「新しい学力観」が自己教育力や思考力, 問題解決力の育成にあり, それには子どもの思考発達や認知発達を授業論的に或いは教授学的に適用する研究が求められると考え筆者の先行研究を基にして思考力について考究した。即ち19世紀から20世紀の思考研究を外観し, ワラスやポアンカレの思考過程と先行研究を比較・照合して造形過程における問題の成立と思考過程を究明した。またメタ認知が思考を操作すると結論づけた。
4. 鑑賞教育プログラムの開発と実践-美術批評の方法論の研究-	単著	平成16年7月	愛媛大学教育実践総合センター紀要. 第22号. 35-49.	フェルドマンの美術批評は, 分析的思考や論理的思考が働きながら主体の価値基準を形成させ, 主体的な価値判断やそれまでの客観的分析に基づく直観的思考を形成する手順であり, 主体の思考過程を追従しながら批評力を育成すると結論づけた。またフェルドマンの批評学習を参考にしたプログラムを開発し, 鑑賞シートの有用性, 豊富で適切な言語や言葉の育成の重要性などを指摘した。
5. 造形教育における思考力とその教授可能性 (査読有)	単著	平成17年3月	『大学美術教育学会誌』第37号. 191-198.	戦後の新教育運動が終息する経緯が現在の教育改革論争と重複する点に着目し, 思考の発達理論が教育課程の編成に関わる史的事実を概括した。また高次の活動において主体は, 分析的思考・直観的思考・メタ認知などの思考の手続き化やシステム化, 解決のアルゴリズムを獲得していることから造形学習における思考作用と知的学習との類似性を示唆した。
6. 思考操作のプロセスとしての美術批評試論	単著	平成17年7月	愛媛大学教育実践総合センター紀要. 第23号. 69-82.	フェルドマンとブルーナーの発見学習理論を援用し, 思考操作が作用する美術批評の教授法を提案した。即ち分析的で論理的な思考を促す発問や批評的な発問・推論・共感による学習者の思考操作を促し, 無意識のうちに解決の道筋を発見させる。「新しい学力観」に基づいた教授法を構想する時, 教授過程で学習者の思考を意図的に制御すると, 思考力の育成に繋がると示唆した。
7. 造形教育における感性の再考と思考研究の今日的意義 (査読有)	単著	平成18年3月	『大学美術教育学会誌』第38号. 193-200.	造形教育における知性と感性について理論的に分析し, 思考が作用する過程としての造形教育を定義した。即ちヴェルツシュの「感性的思考」やガダマーやカントの理論と, 筆者の研究成果を理論軸にして, 造形教育における感性は直観的思考と分析的思考が統合された結果であり, 知的で合理的な操作であると論述した。
8. 「造形的イメージ操作」の分析による思考の解明と造形教育カリキュラムへのその適用 (査読有)	単著	平成18年3月	〔博士学位論文〕 平成20年度 科学研究費「学術図書」採択. 1-504.	論文は造形的イメージ操作に関する基礎的実験研究と理論研究, 及びその成果を適用したカリキュラム研究から成る。造形的イメージ操作は思考と類似の機能である。即ち造形活動において思考力を育成する教授学習過程を示し, 知的教育としての造形教育を立論した。更に高次元な活動の基礎にあるイメージ操作を分析し, その操作構造を獲得するカリキュラムを開発することで教育実践と教育改革の方向性を示唆した。
9. 「思考操作」を意図した造形教育カリキュラムの検	単著	平成19年3月	『大学美術教育学会誌』第39号. 143-150.	学習者の思考操作をカリキュラムに適用する理論軸としてランダのアルゴリズム理論やソビエトの教授理論である教授のアルゴリズム化を検討した。即ち造形教育における教授のアルゴリズム化は直観的思考やメタ認知の育成, 教授内容の

<p>討 (査読有)</p> <p>10. 造形ワークショップにおける共同的学び -広汎性発達障害児を支援する造形活動を考える-</p> <p>11. 広汎性発達障害児に関わる美術教師の支援</p> <p>12. 広汎性発達障害児のための造形プログラムと支援</p> <p>(論稿・書評)</p> <p>1. 幼児とともに環境をつくる 「環境構成に伴う教師の役割」</p> <p>2. 書評 「手 -もう一つの生活-」</p> <p>3. 現代美術のためのキーワード 「情意面の評価」</p> <p>4. 子どもたちが求めていた「人間形成としての美術教育」 子ども像の変容と美術教育</p> <p>5. 現代美術教育展望 遊びの原理と方法</p>	<p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p>	<p>平成19年7月</p> <p>平成20年10月</p> <p>平成20年7月</p> <p>平成3年1月</p> <p>平成3年2月</p> <p>平成3年3月</p> <p>平成4年7月</p>	<p>愛媛大学教育実践総合センター紀要. 第25号. 35-44.</p> <p>愛媛大学教育学部紀要. 第55巻. 121-128.</p> <p>愛媛大学教育実践センター紀要. 第26号. 55-65.</p> <p>『教育美術』教育美術振興会. vol152. 1. 49-50.</p> <p>『アートエデュケーション』建帛社. vol13. 2. p. 108-109.</p> <p>『教育美術』教育美術振興会. vol152. 3. p. 52.</p> <p>『教育美術』教育美術振興会. vol. 1. p. 49.</p> <p>『美育文化』第42号. p57.</p>	<p>個別化の観点から有用であると示唆した。状況主義的な学習観にある現在ではカリキュラム開発に際しては潜在的な価値の研究が重要であると主張した。</p> <p>広汎性発達障害児とその家族を対象にしたワークショップは、指導者・参加者・メディアの三者が共同的に学ぶ場が成立し、そのプロセスで誘発されたコミュニケーションが新たな価値を見出し深化・発展した。状況主義に依拠した学習理論では、学習はコミュニケーションから生じると考え、その時の状況や文脈と切り離されない。このように学習を捉える時、造形ワークショップでは新たな価値が生じることを示唆した。</p> <p>広汎性発達障害の特性である想像力・コミュニケーションの障害、認知過程の違いが、発想やイメージを表象的に表現する造形教科に与える影響を把握して、教師は学習過程や指導方法を工夫する必要がある。本論では通常学級に在籍する広汎性発達障害児の授業観察を通して、障害の特性がもたらす授業への影響を整理した。その結果、教師は視覚的支援、ワークシートの活用、よさを認める評価を重視する必要があると指摘した。</p> <p>本論では表現・図画工作・美術の教科における、広汎性発達障害の子どもたちのための造形プログラムを開発・実践した。また、教科指導の視点から子どもたちの理解とその支援方法を考究した。数回のワークショップを行い、個別支援や視覚的支援の重要性（タイムスケジュールの提示、絵や図を用いた活動内容の説明、センテンスカードの利用）や、見通しをもたせる支援の重要性を指摘した。また、子どもを取り巻く環境設定のあり方を提案した。</p> <p>幼児の主体的な遊びの保障には、教師自身が子どもの遊びの変化に応じて環境をつくり変える力や、幼児の活動を豊かなものに変える力を備えることが重要である。</p> <p>ウィリアム・モリスの理論を援用しながら自然との共生が現代社会の課題であること、手を使うことの五感に及ぼす効果などを考察した。</p> <p>「新学力観」では絶対評価が主流であるが、学力を能力として図るだけでなく、関心や意欲などの情意面における評価が伴う。情意面の評価は、学習者の自己評価の利用が有効であると指摘した。</p> <p>現代の社会構造や児童中心主義的教育によって、子ども像も変化した。豊かな人間形成をめざす教育は、その指標や方策も曖昧で指導の立場を不明瞭にし、美術そのものの教育をも希薄にしていると唱えた。</p> <p>子どもは教育の意図性や意識性の影響を受けながら、遊びの過程で自主的に個性的な自己の活動を展開する。人間の発達と教育の関係についてヴィゴツキーの「発達の最近接領域」を援用して遊びの指導者としての在り方をまとめた。</p>
---	---	---	---	--

(学会発表) 1. 「みたて遊び」における造形の契機と構造  2. 造形遊びにおける「造形的みたて」と表現形態の傾向性  3. 「造形的みたて」における構造と操作過程  3. 造形的イメージ操作の過程	単	平成3年3月	第13回 美術教育学会	
	単	平成3年11月	第29回 大学美術教育学会	
	単	平成5年3月	第15回 美術教育学会	
	単	平成6年11月	第31回 大学美術教育学会	
(その他) 科学研究費補助金採択 1. 「造形学習のデザイン化」による軽度発達障害児の支援システムの実証的研究と開発  2. 「造形的イメージ操作」の分析による思考の解明と造形教育カリキュラムへのその適用	単	平成19年度 ～平成20年度	基盤研究(C) 課題番号：19530825	
	単	平成20年度	研究成果公開促進費 学術図書：205183	
その他 (表彰等)		1984年4月	第50回 東光会／「室内Ⅶ」油彩画. 1455×970. 「ファインアート賞」受賞	